

CATALOGACIÓN: Fûkeiga. Paisajes, n°17

Signatura: J-D 4-1

Nombre del artista: UTAGAWA HIROSHIGE III

Título: Dai Nippon bussan zukai (Productos de Japón)

Firma: Hiroshige hitsu

Fecha (en calendario occidental y japonés): 1877. Meiji 11

Censor: Gahô Andô Tokubai kô

Formato: Orihon

大日本物産圖會全



大日本物産圖會

大和國葛根堀圖

高へ山野あり然も生る葛
草うへへ谷口芽より新芽
と生一葉三葉さうて紫茎又
毛あり秋葉の潤より、續て
生し花の潤く玉の花ふ似
く紫赤色つり、長葉と紫葉
その根は、紫より肉
白色たう、この根を冬より
春の会まのふらまきやう
鶴毛さうてあり、とろろを
ゆへ石盤のうへを打
り、蒸しあを人中ふて
り、ゆへあり



大日本物産圖會

鳴海瀬りと称す愛知郡
有松にて多く産す織物
と鹿の子まじりばいそた
すきあかりい雲南竹ま鹿
の懸物西りやうと瀬瀬
藍紅とうはくと深あや
たりのうーと最夫也
綿布を以て深あやと
浴衣襟衣ホにもあひ
ま一皆布をてあほり
たりののり

尾張國有松瀬りの國



鳴海瀬り

大日本物産圖會

扇ハ愛知郡名古屋より
て多く出ばるるに名古屋
屋扇の名あり支那製
と微く薄竹骨あり造り
軟弱と強は本骨はすく
竹朱丹屋扇象牙の
紙より製す塗骨を
金銀のやうに彩りし色
鳥虫山水をを彫刻して
最良なる

尾州名古屋扇の図



画王大鏡町四番地 安藤徳兵衛

由慶人日輪通五草森地大倉源兵衛

大日本物産圖會

同 炭焼場之圖

炭の豆割天城山妻良
小浦より多く出テ山
中ふ土とて大いなる
焼窯とほらり薪和登の
木等を建る並の色で
火でほととぎすうとて
煙やきばくく製す
ことふ堅硬なるりのと
ヒンチヤウと稱すこれの
ウバカシもく焚く物
あり



炭焼場

大日本物産圖會

國新島三宅島其他
 之島中椿樹の多きこと
 本邦第一とす山野み自
 生してその花むも艶麗
 かり花ちりく後實残
 むすぶ土人これと採りて
 臼まて搗袋ふ入てメ水
 かくり油と搾りて此色
 ちろく澄消るべく粘
 らば洋州のホルト油と
 勝るり

伊豆國椿の油と取圖



画主大鏡町四番地 安藤徳兵衛

出處人長播通三車丸巻地大倉源兵衛

大日本物産圖會

東京錦繪製法造之図

錦繪の武州東京の名産にして
本畫或の絹皮紙木に湖
と虹や伊豫の田西糸より出
す取紙あり想いの多一板
藤木を用ひ一色毎ふ二板
宛と刺し先登を叙う摺始
めん一色毎ふ二板と並りあり
半幅より四寸半幅の色と並り
合せ終ふ一枚の錦繪と成り
い原より出する起り女付て凡六
十一刺と雲々も錦繪と成り



画工 大錦町四番地 安藤徳去衛

錦繪の製法

大日本物産圖會

海苔ハ本邦第一の名産
 多くは社原郡品川大森村より
 出れば古浅草川より産せし
 て以て浅草の名あり冬は節海
 濱の引と待て枝を附る若と
 採り他物と摺り押く紙の如く
 漉して黄成り干し拾枚と乾
 と定て諸國に出る近世カス
 の類は貯て夏食用と供す

武蔵國淺草海苔製圖會



画王大錦町助齋地 安藤徳五衛

出處人見橋通千草九番地大倉彌五郎

大日本物産博覧會

鯉の當國九十九里の海濱
あく十月頃より五月迄漁
するに尤も盛なり皆地曳網
なり魚の來へんを磯の
三里沖へ網を張る五百尋
七百尋ある陸あぐ土網を
曳り凡三百余人浪の寄る
臨みて曳あげたると持て魚
どもをひ破り上りおの如く
つも上ヶ大漁と云へ皆干鰯
と云或は油と云魚油と云

上総國九十九里鯉漁之圖



鯉を引

大日本物産圖會

當國^三陀^四郡^水更津^{海濱}
 より五妻川^尻の^濱より^建
 千^綱と^多く^て^滿湖^のを^き
 沖^へ出^ると^二里^余こ^し六^尺
 毎^ふ杭^とか^ちれ^一綱^と張^り
 と^又二^十尺^あり^て湖^の引^け
 從^ひ磯^の魚^は此^中集^る
 漁^人と^れを^以り^多漁^の時^に
 交^魚何^千頭^と云^ふと^又千^頭
 又^客あり^て綱^を求^むと^然ら^ば
 潮^の引^らる^と其^魚を^とり
 自^ら客^おと^する^のを^き東^京
 の^新千^符の^とり

上総國^處千^綱之^圖



御届明治十年八月十日
 出展人は檜通三郎及妻地大倉孫兵衛

皇王大親町四番地 安藤徳兵衛

大日本物産圖會

野田 野田
海 海上 海上
小 小
和 和
熟 熟
色 色
野 野
合 合



大日本物産圖會

舊餘千葉の兩郡にて
 おりて畑は作る夏草
 子一々実の大さ冬
 のごとく七八月のそ
 く其そと皮の青黒色
 ちて中ハ紅色ありま
 外皮白青色うて中
 黄うりのあり水多く
 て味甘し暑熱と消す
 りのなり

同西瓜畑之圖



出處八日森橋通二百九番地大倉孫兵衛

画王大鑑町四番地安藤徳兵衛

大日本物産圖會

蚕ハ本邦諸國ノ製糸トモ
 當國最多トハ種子
 分捕よく面一様はて生気
 く卵の中少一四ミ種ゆ地令
 よくあがり城のそとくも種
 子のちとじよくわくは自
 ちり取あつたひち落さる
 最上ノ糸第一共年上ノ糸
 と食せ二作の蚕のこを種
 を極上ノ糸區分種元を吟
 味して上種を採むべし

帝陸國之養蠶之圖



J-D

4-1

J-D

4-1



大日本物産圖會

鯉イナは上州武州利根川トネガハお多く
 湖中ミヅウミ當國の川々よて漁す
 るりの佳味と云イハレ鯉イナと川
 中ナカに張カきたるイハレ罾コ者水中
 にイナ入イ鯉ナと抱イきイらイげイるイお
 水イがイらイまイのイ洋イあイりイ 罾イをイ
 (収イめイ成イハイ舟イ中イ) 抛イあイるイ
 水中イ 鯉イとイわイくイらイしイたイりイ
 のイよイくイ鯉イのイ目イとイあイらイへイおイ
 ぎイ抛イあイらイしイ水イをイあイらイまイのイ際イ
 大イはイ手イ練イあイりイとイツイムイ

常州鯉の抱取の圖



出處人見長掃通丁直丸番地大倉孫五衛

画工大鏡町四番地 安藤徳兵衛

大日本物産圖會

青花ハ鴨跖草の花は、
影しく自生するといふが、
當國山田郡ニ産する者ハ
一種大葉以て花弁の
大キサ常品の力のより十
倍す故に青花紙と製紙
すのハ是種尤は、
毎朝花弁をつとて其液を
搾り美濃紙へ刷毛と
乾くと又同じきと五全度、
して則青花紙となす。

近江國月花紙製圖



近江國月花紙製圖

大日本物産圖會

蚊帳ハ麻苧を多く遊用の
國より求りて高田國坂田海井
伊香の三郡より織立簾と
以て下流とほしめ安しら小
涼草より上流とより一桐
みく致さく長濱へ轉賣
す同河より高村。沖風
卯の花。曙。養老より
各々銘をつけて東京へ
輸出すこゝを彩

近江國濱蚊帳輸出圖



由人長持運下車九畚大倉兵衛

重入長持運下車九畚大倉兵衛

大日本物産圖會

何色の年へもハハ夜前後
 小の蚕生と出さるる蚕少し出
 加ノクハ正午十二時頃喰ひたる
 時と見合せ種と取出し白紙
 五六枚とちと包とそのこ
 板出麻やとちと物なまるとつ
 或ハ青柳とちとマウの物ナハ
 破らるる地へ上テ ちまきヨも二三度
 つく種と取るちけ又元の如
 くさすちかりまふとちとちと
 ちのちと洗ひ清浄と旨と



大日本物産圖會

大日本物産圖會



飛州猪捕之圖
 野猪、常陸國諸郡より
 出ると、魚ヶ大野郡加賀
 の國より、白山の近辺
 最も多し。大勢の人夫、鉦
 太鼓、竹筒、赤まて、山々
 より猪、熊、鹿、と、狩
 出す。獵師、岳よりありて
 獸の跡、追、め、く、と、ら、り
 鉄砲、よ、く、打、と、ら、り

山人具橋道三卓及地大倉孫兵衛

画王大崎野畧地 安藤徳兵衛

大日本物産圖會

葛粉の清濁を培養すと之
ども常用され科郡と各庄
とす葉は二枚程は一寸薄く
小白花とひらき三枚の葉
とひすは秋を垂と下
冬ふつとて川とく磯とを
以て懸へ去り脂とをひよ
くす末を ちり湯に
て浸りし目ふのへく細
くかくさくして食用に
供は



大日本物産圖會

大日本物産圖會

ハツ目鰻の信州諏訪の
 湖を採る名産とす
 上下の諏訪里計のあひだ
 湖水米うへを漲つる上
 小の家を閉じし漁夫の休
 ふ所とす。水と上り、薪
 と積焚て火を充てて煮ち
 延縄は共餅を骨て釣取ると
 又平標網を垂れ魚を採る
 あり



画王大鶴町四番地 安藤徳兵衛

出展人長瀬通三郎 父島地人倉徳兵衛

大日本物産圖會

茶の養ひ方其勝の寒暖
よりて大同小異ありと云ふも
先一枚の種子半分を生せし
時初摘へると末の葉と
うみまきつてあふ入之て黒
子といふ其黒茶末の葉も取
あると知き若くは挾て別の
釜に配り入るゝこ九枚一枚の
釜を三尺四方位に薄くちぢ
二日と久しおとす前の如く
日三度と釜に切て蒸まらう

下野國茶食標圖三

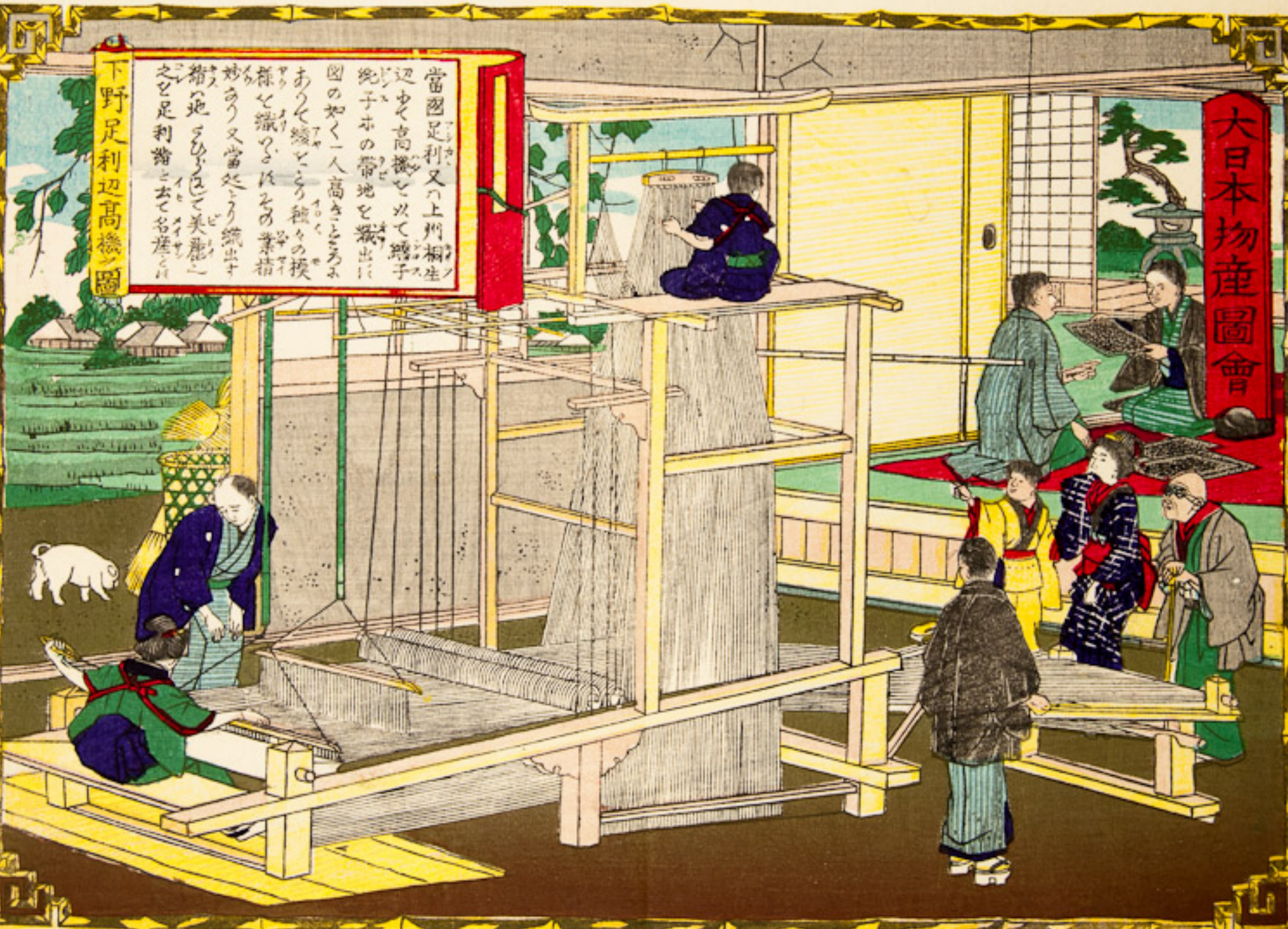


新
茶

大日本物産圖會

當國足利又ハ上州桐生
 辺少ク高機ニ以テ織子
 純子ホの帯地ヲ織出シ
 図の如ク一人高キトモホ
 ありて機トモ織々の機
 様々織ワレ其の業精
 妙なり又當處より織出す
 猪の地ニひらびらて美鹿
 之と足利藩ニホて名産トシ

下野足利高機圖



出典 大日本物産圖會 大倉藩工

出典 大日本物産圖會 大倉藩工

大日本物産圖會

登梯立のりセハ日頃業
真止と色少一白くから
多しと無子の居体と
ふ此時早く居らんと取久
て世明朝八時おえんとあ
前夜来と世せと居らんと
取きや、以時縁通ふ尾方
委と中置中お在りし縁
へく揃も上下へ入くじら
委一調ふく揃ふと云



大日本物産圖會

大日本物産圖會



馬ハ宮國相馬三春の諸所
 牧場ありて産む春秋兩處
 馬多かりし所の十日も前ころ
 追寄あくる三四月以前より
 人等七八百人も出場の上下
 立て声どくろ原中の牧士
 野馬と追立漸く抜き野へ
 追詰追立大勢くまて
 少く伏せたり勢ゆるき首
 尾へ大勢をひいて引出す
 時近きより見物群集す

磐城國野馬補之圖



画工大塚町乃善地 安藤徳兵衛

出版人上野橋通五右衛門善地 大倉徳兵衛

大日本物産圖會

獲ハ日用^{ヒヨウ}必需^{ヒツジュウ}の品^{シモノ}を山^{ヤマ}邊^{ノヘ}
 ハセ深^コ天竺^{テンシク}桂^{ケイ}の実^{ノミ}等^{トウ}より
 採^{ツク}或^シハ蜂^{ハチ}の巣^ス水^{ミヅ}邊^{ノヘ}樹^キ木^ノ
 取^トりあり當^{トキ}國^{クニ}を漆^シ樹^キ
 よん^ンとる物^{モノ}ハ十月^{シツグ}落^{ラク}葉^{エフ}頃^{ノトキ}
 実^ミと^トり白^{シロ}く梅^{ウメ}箕^ヒよ
 以^モて彩^{イロ}と^ト敷^{シキ}の^ノ大^{オホ}
 全^{ゼン}の上^ノへ木^キ材^{ザイ}を並^{ナラ}べ^テ
 本^{ホン}を^シて^シて^シて^シて^シ
 て又^{マタ}麻^{アサ}の^ノ俵^{ヒラ}を^シて^シ
 わ^カと^トメ^メ木^キの^ノ俵^{ヒラ}を^シて^シ

山石代國會津蠶育株図



大日本物産圖會
 卷之五
 蠶桑

大日本物産圖會

あかきるる液を蠟ろうて
 溶し大なる桶へ冷水を汲
 その上を穴の穿たる管を
 置きとらじらる蠟を管の内
 へ入るも此穴より漏るを
 ひき水の中へおろすと
 ろとろりとつらつらと
 籠へちりて日光より
 曝しあけりすと十五六
 日のちたららふつめく
 諸國へ出す

同蠟ヲ製ス圖



蠟作之圖

蠟作之圖

大日本物産圖會 安藤徳兵衛

大日本物産圖會 大倉利兵衛

大日本物産圖會

蚕生と出こより四度の居起あり
 取初獅子の居起より座席の歌
 起舟の居起迄の眠れたる居起
 の二目毎の居起取入(家)席ハ
 蚕小又合せ少トテ、あかく切て
 籠へて埃とまり能るはとして
 飼ふるとは、こは厚、飼ふされ
 ば虫少くして、まめも少はすの
 が、又山はまをくらせし蚕(天
 かり)はして糸の正味多しと云

陸前國養蚕繪圖五



陸前國養蚕繪圖五

大日本物産圖會

出版人是德田三郎大倉會社大倉書局



松島ハ日本ニ最モ名勝ノ地ナリ
舟路ニ里余方ハ歳々々々石の
海ノ口ニて島々ノ数々及ヒ後
時々前々向以波ハ向ひまふ
うをわきこし樹枝を伸居
て其首尾を控ふて風色も取
濃あり又埋木ノ名取郡を取
川より産出ル年久敷水中ニ流
レ木々之知黒或白並ありその
質ハ島木ノ如ク多く想々長
折葉子並其他種々ノ細さあり

金巻山

画工大鋸町四番地 安藤徳兵衛